

施工説明書

コンパクト手洗キャビネット

L-D203SCHE

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。

1. 安全に関するご注意

安全のために守ってください！

キャビネットを安全に取り付け、使用時の事故を回避するための注意事項をあげさせていただきます。

施工前に、この項目をよくお読みいただき、事故のないように正しく取り付けてください。

用語および記号の説明

警告 … 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」

注意 … 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

! … 「注意しない!」(上記の「警告」「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)

禁止 … 「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。)

! … 「指示通りにしないで!」

指示実行

警告

水道水および飲料可能な井戸水以外は接続しないでください。
※機械内部の腐食により破損や漏れ、故障の原因になります。

禁止

注意

止水栓の調節と施工後の漏水点検を必ず行ってください。
※漏水により家財等を濡らす恐れがあります。

指示実行

キャビネットの取付位置には壁裏に補強をしてください。
※取付物の転倒、落下によりケガをする恐れがあります。

指示実行

お客さまにお渡しするまでに凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。
※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす恐れがあります。

指示実行

ストーブやヒーターなど、熱を発生するものを近くにおかないでください。
※火災をおこす恐れがあります。

禁止

施工完了後は、扉の傾き、ガタツキがないことを確認してください。また調節後は必ず、調節ねじが締め付けられていることを確認してください。(施工方法9「扉の確認」参照)

指示実行

商品にもたれたり、たたいたり、強い衝撃をあたえたり、固いものをぶつかけたり、冷水・熱湯などをかけたりしないでください。

禁止

商品にもたれたり、たたいたり、強い衝撃をあたえたり、固いものをぶつかけたり、冷水・熱湯などをかけたりしないでください。

禁止

手洗器、キャビネット類の固定は確実に行ってください。
※落下・転倒などによってケガをする恐れがあります。

指示実行

酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類、ベンジン、シンナー、ラッカー、アルコール等の溶剤や油類を使用して拭かないでください。

禁止

水栓にトイレ用洗剤、住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、トイレ用ウェットティッシュ、クレンジング、クレゾールを使用しないでください。

禁止

取り付けは施工店が行ってください。また、施工説明書の指示通りに施工してください。

指示実行

※誤った施工は取付けが不安定になり、ケガをする恐れがあります。

2. 施工前のご注意

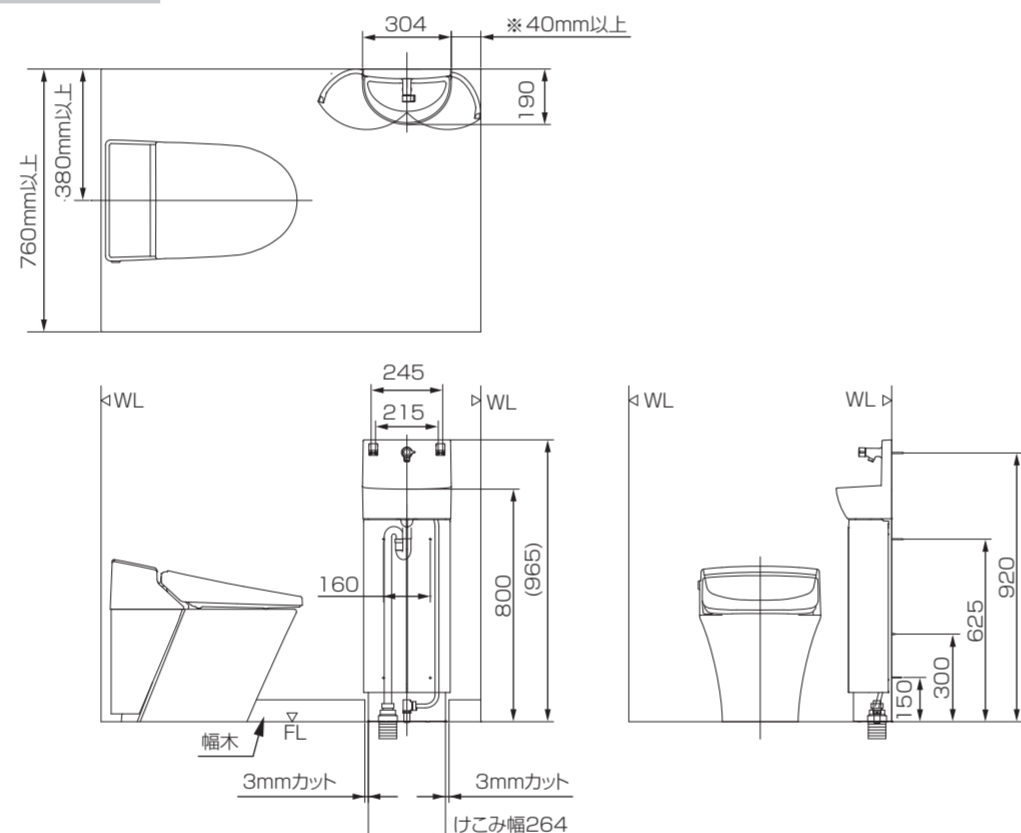
商品を取り付ける前に、次の項目について確認をしてください。(該当しない場合、商品が取り付けられない恐れがありますので修正してください。)

1. トイレ寸法及び給水管、排水管立上げが以下の図面通りにできていることを確認してください。
2. キャビネット取付部に下地補強木が入っていることを確認してください。(厚さ30mm以上)
3. キャビネット背面には幅木を設置しないでください。
4. 壁、床の直角度(かね)がでていることを確認してください。
5. キャビネット及び手洗器の納まる部分の床、壁仕上げができていないことを確認してください。
6. 給水圧は以下の条件であることを確認してください。

【条件】
最低必要水圧は0.05MPa(流動圧)、最高水圧は0.75MPa(静水圧)です。

7. 建築側壁面に2mあたり5mmを超える不陸がないことを確認した上で設置してください。
8. 不陸があるまま設置すると製品がひずむ場合があります。
9. キャビネットと壁を40mm以上離して設置してください。
10. 施工時、施工後に直射日光が当たらないようにしてください。
11. ※変形や変色の恐れがあります。

施工条件

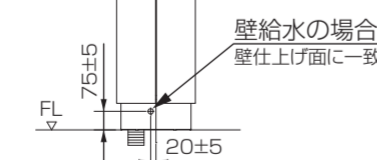
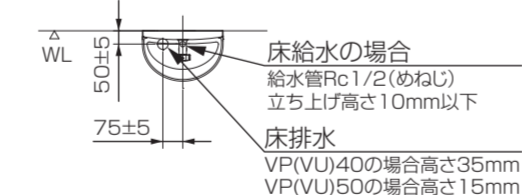


* () 内は、参考寸法。
上図ビス位置に補強木(厚み30mm以上)が入っていることを確認ください。

「壁給水・床排水の場合」



「床給水・床排水の場合」

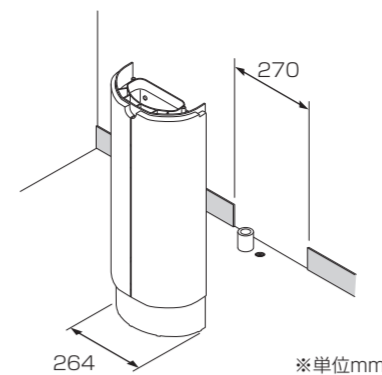


壁給水の場合
壁仕上げ面へ一致



「幅木の位置」

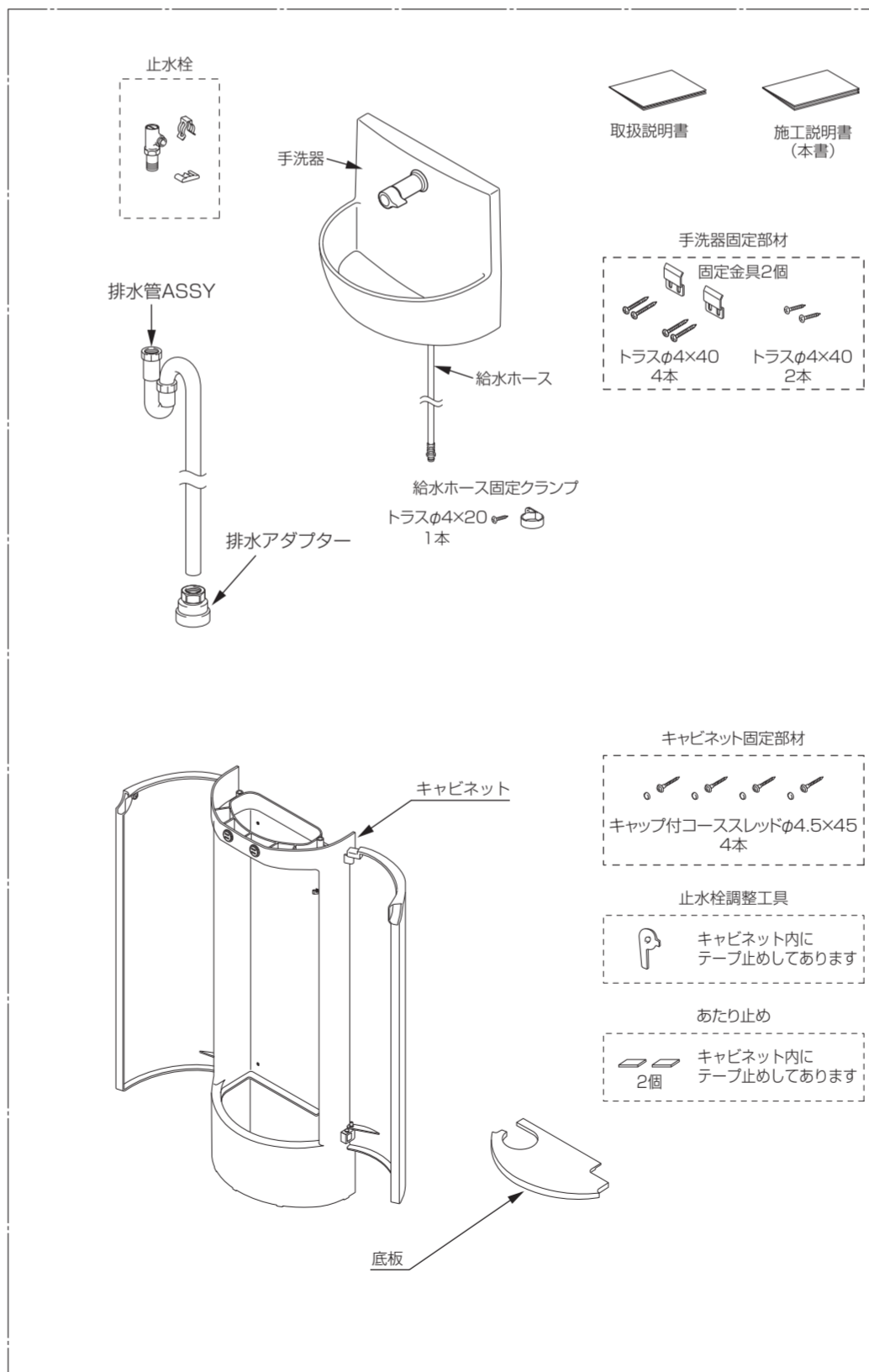
- 幅木がある場合は、あらかじめ幅木を切断してください。



3. 施工手順

- 1 止水栓及び排水アダプターの取付け
- 2 固定金具の取付け
- 3 キャビネットの固定
- 4 排水管ASSYの取付け
- 5 手洗器の取付け
- 6 給水ホースの取付け
- 7 各ジョイント部の増締め
- 8 通水確認・漏水確認・吐水量の調整
- 9 扉の確認
- 10 水抜き(凍結の恐れがある場合)
- 11 底板の取付け・ゴムキャップの取外し
- 12 コーキング

4. 部品の確認

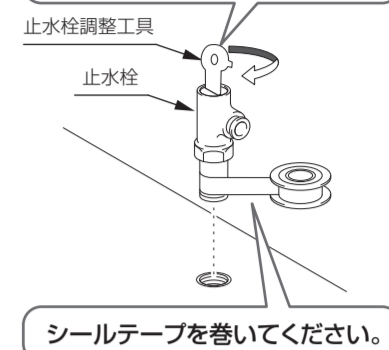


5. 施工方法

1 止水栓及び排水アダプターの取付け

1. 給水の取出しに止水栓を取り付けます。
※止水栓の流量調節栓が止まるまで右へ回してください。

止まるまで右へ回してください。



ポイント

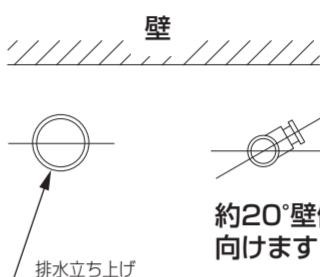
止水栓は下図の向きに取り付けてください。

注意

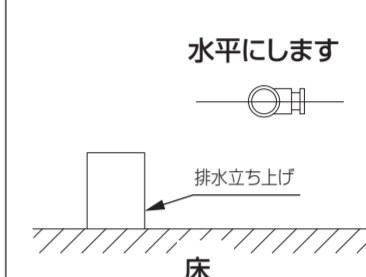
下図の止水栓の向きは、仮位置のため、最終的に増締めしてください。

シールテープを巻いてください。

【床給水の場合】



【壁給水の場合】



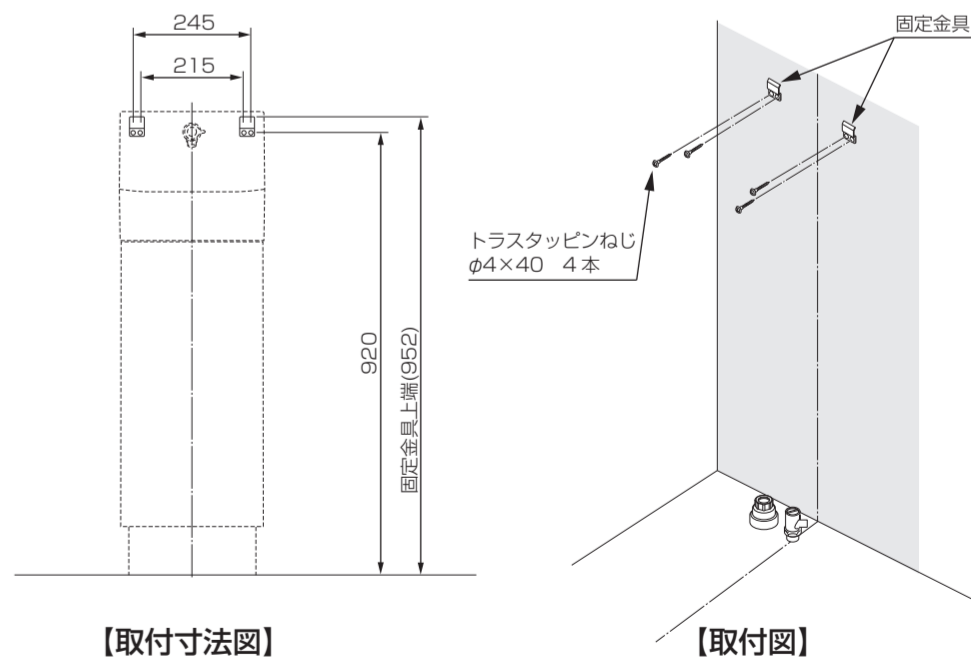
2. 排水アダプターを現場排水管にはめ込んで接着します。

※排水アダプターは、簡単に外れない程度に軽めにはめ込み、接着してください。
無理に奥まで押し込むと破損する恐れがあります。
※現場排水管の周囲の汚れ、湿気は十分に取り除いて接着してください。



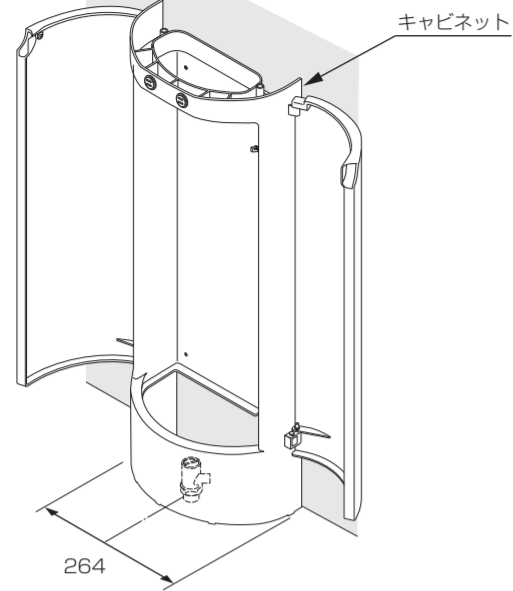
2 固定金具の取付け

- φ3の下穴をあけ、ねじ4本で固定金具を取り付けます。
※漏水防止の為、止水栓に木くすなどゴミが付着しないようにしてください。

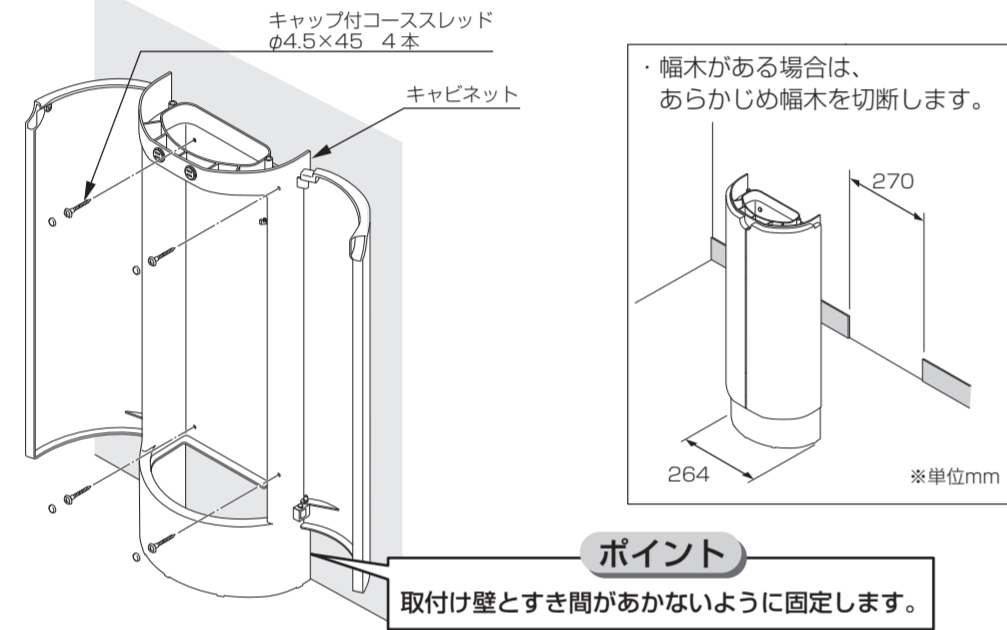


3 キャビネットの固定

1. 止水栓が中心になるようにキャビネットを仮置きします。
 ※扉は外さずに施工ください。部品を紛失する恐れがあります。
 万が一外れた場合は、キャビネットを施工する前に扉を取り付けてください。



2. ねじ4本でキャビネットを固定し、ビスキャップを取り付けます。

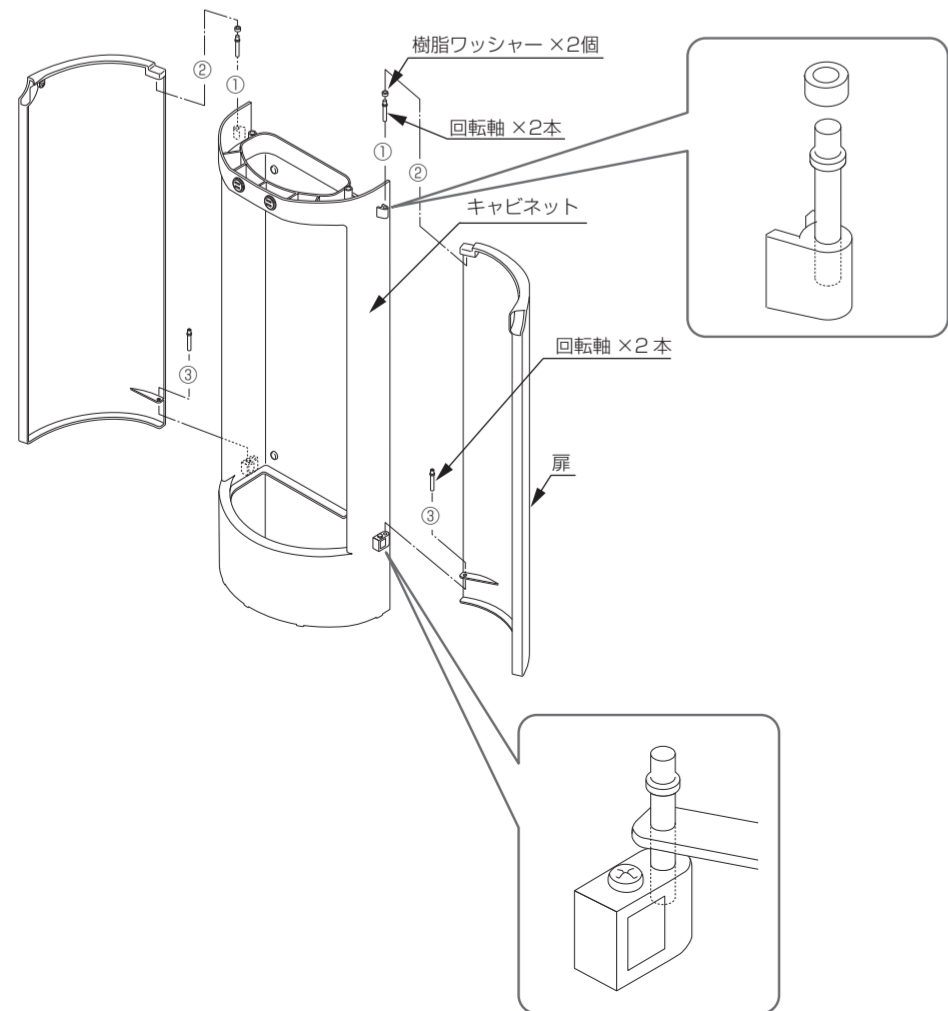


注意

ねじを締め付けるときはインパクトドライバーを使用せず、必ず手で締め付けてください。

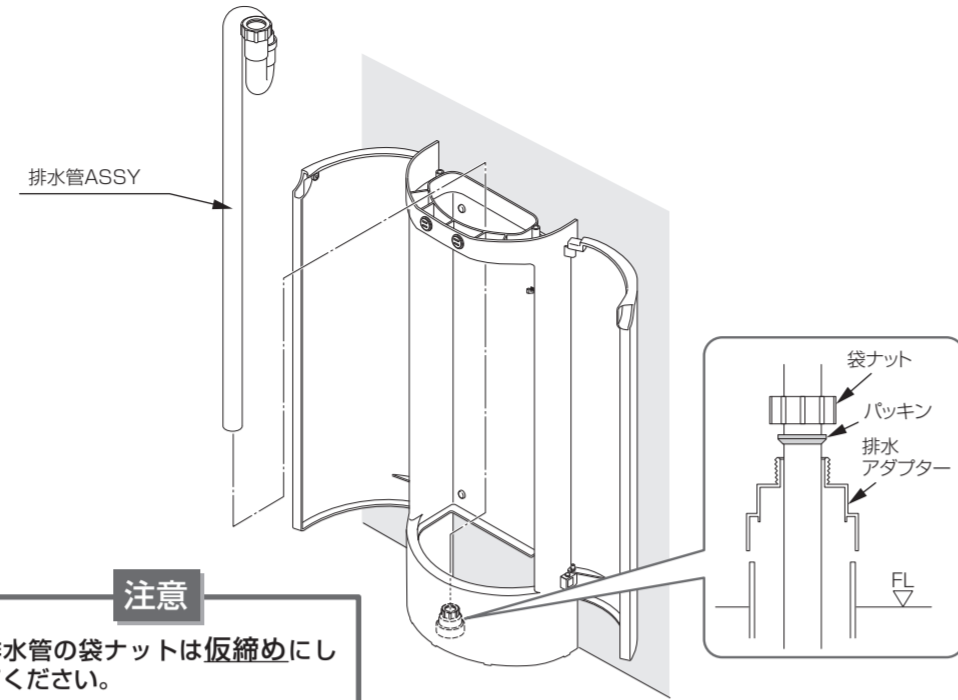
【施工時に扉が外れた場合】

施工時に万が一扉が外れた場合は、次の手順で扉をもとに戻してください。
 ①回転軸と樹脂ワッシャーをキャビネットの上部へ取り付けます。
 ②扉をキャビネット上部の回転軸へ取り付け、扉の取り付け穴に回転軸がはまっていることを確認します。
 ③扉の下部とキャビネットの取り付け穴を合わせ、回転軸を取り付けます。



4 排水管ASSYの取付け

排水管ASSYを排水管へ取り付けます。

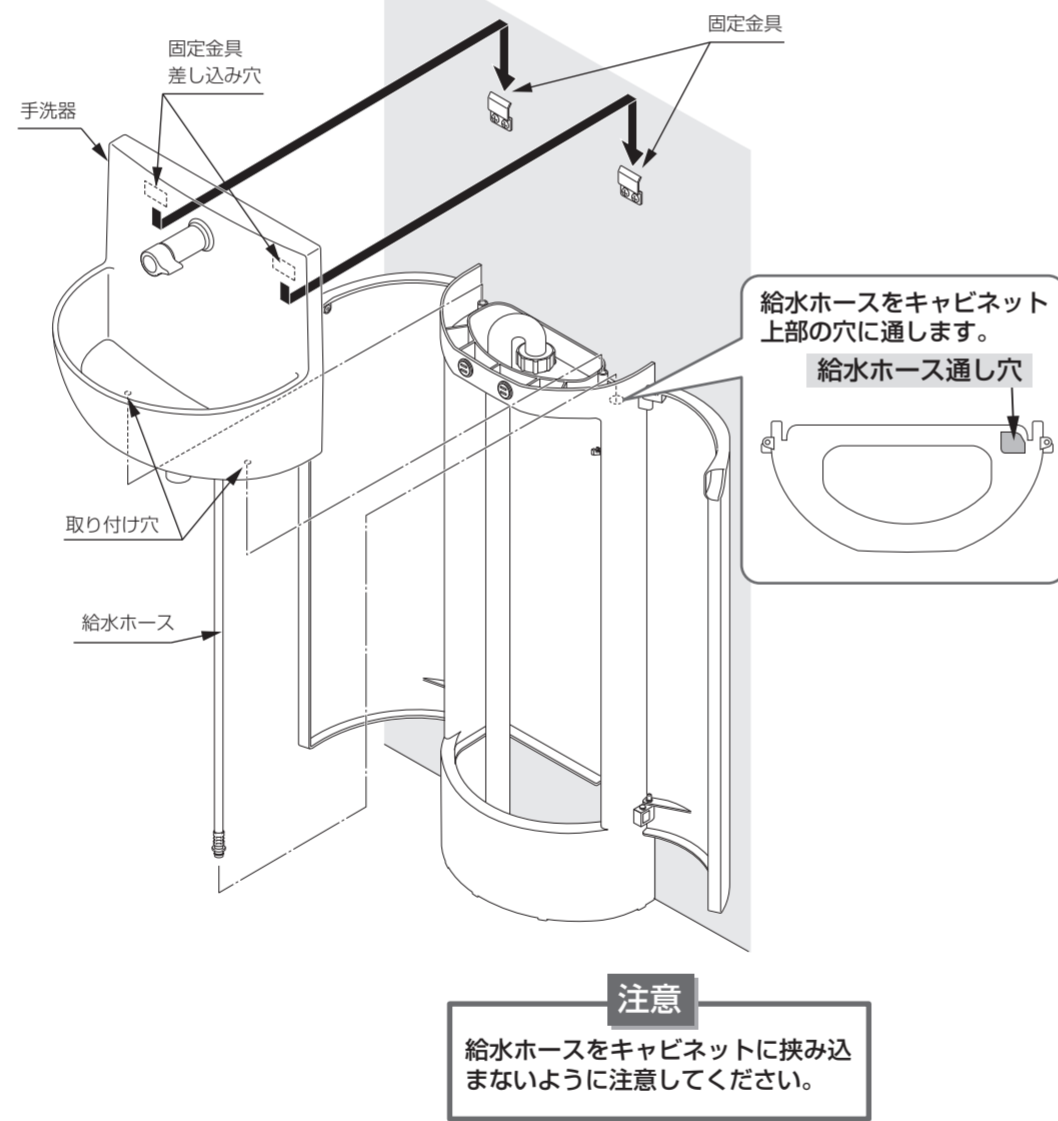


注意

排水管の袋ナットは仮締めにしてください。

5 手洗器の取付け

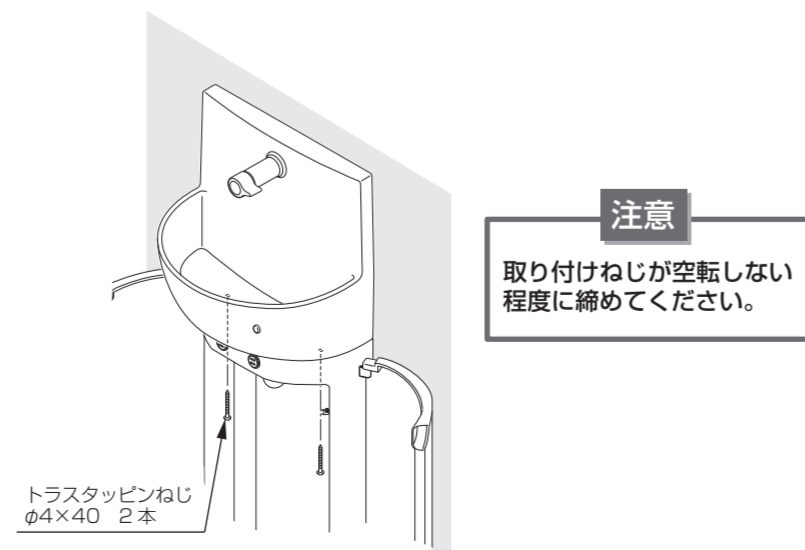
1. 排水トラップを取り外します。
2. 給水ホースをキャビネットの給水ホース通し穴に通します。
3. 手洗器をキャビネットに設置します。
 ※手洗器とキャビネットの中心を合わせて取り付けてください。
 取り付けたときに、取り付け穴が合っているか確認してください。



注意

給水ホースをキャビネットに挟み込まないように注意してください。

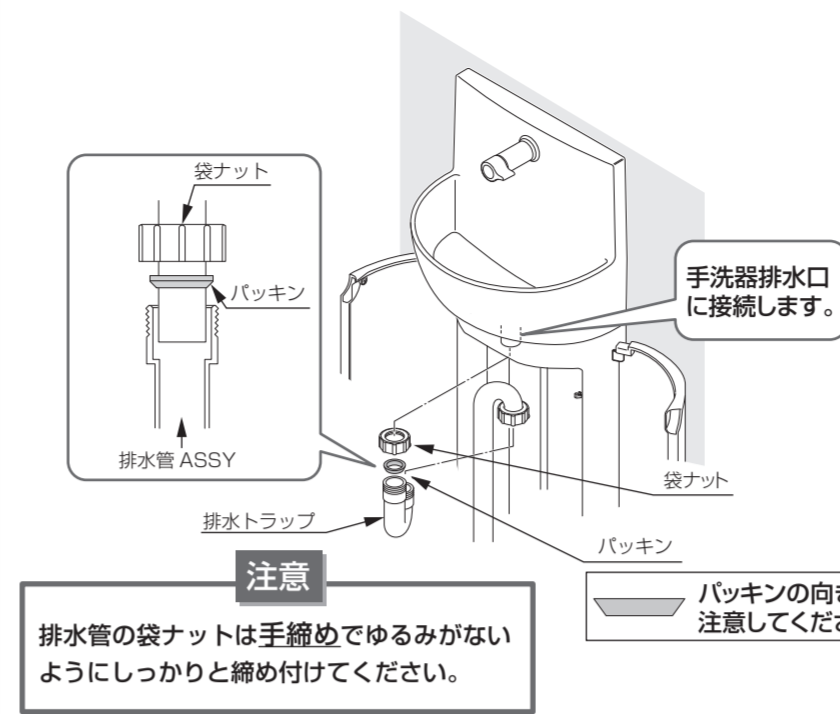
4. ねじ2本で手洗器を固定してください。
 ※手洗器とキャビネットの取り付け穴が合っていることを確認してからねじで固定してください。



注意

取り付けねじが空転しない程度に締めてください。

5. 排水トラップを取り付けてください。



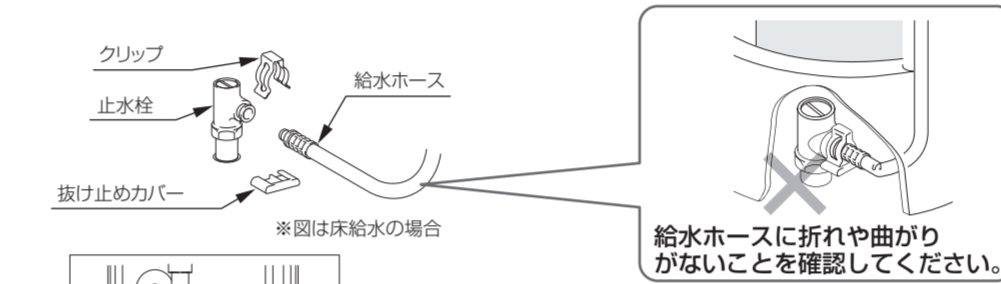
注意

排水管の袋ナットは手締めでゆるみがないようにしっかりと締め付けてください。

バック金の向きに注意してください。

6 給水ホースの取付け

クリップと抜け止めカバーで給水ホースを止水栓へ取り付けます。



注意

- リングにキズをつけたり、ゴミかみをさせないように注意してください。
- 確実に接続されていることを確認してください。誤って取り付けると漏水の原因となります。
- 止水栓は最終的に増締めしてください。

たるまないようにクランプでキャビネットの取り付け穴に適宜固定します。

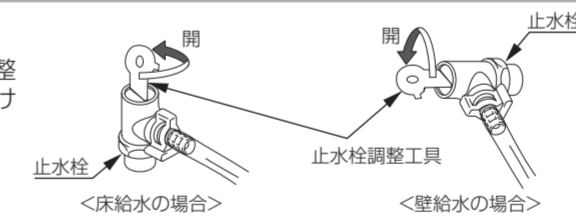
7 各ジョイント部の増締め

排水管の各ジョイント部を増締めしてください。

8 通水確認・漏水確認・吐水量の調整

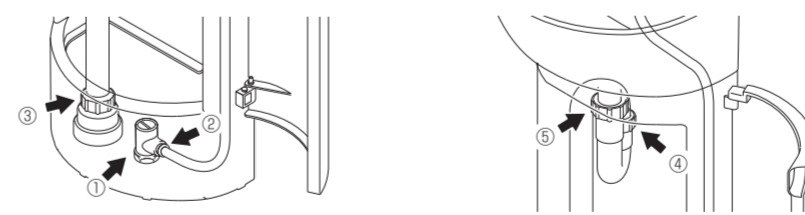
●通水確認

キャビネット内に設置されている止水栓調整工具を用いて、止水栓の流量調節栓を開けてください。



●各接続部の漏水確認

通水を数回おこない、各接続部に漏水がないことを確認してください。



●吐水量の調整

①ハンドルを吐水の状態にします。
 ②キャビネット内に設置されている止水栓調整工具を用いて、止水栓の流量調節栓を回し、吐水量を調整します。
 ※吐水量は、水が泡沫状になり始めたときが目安です。
 ※流量が4L/min(1Lの容器をいっぱいにするのに約15秒)で使用されますと排水トラップ内の水が破封する恐れがあります。



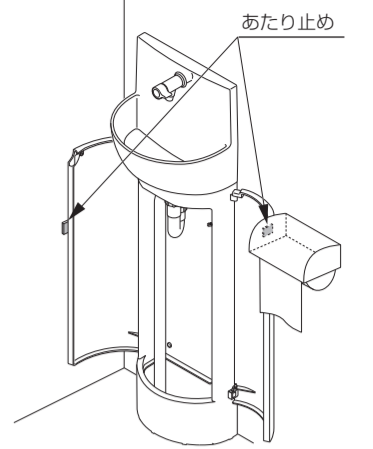
注意

施工完了から長期間にわたり通水をしない場合は、トラップに水を入れておいてください。
 ※排水管からの臭気ガスにより、商品の内部金具がさびる恐れがあります。

9 扉の確認

●扉の開閉確認

左右の扉を開閉し、他商品や建築（壁や扉）と当たる箇所に、あたり止めを貼り付けます。



●扉の確認

※壁に凹凸がある場所に施工した場合、扉の隙間が均一にならない場合があります。
 ※手順にしたがって扉の隙間が1~3mmで均一になるように調節してください。

【扉上部の隙間を調節する場合】

- ①マイナスドライバーを使用して、マグネットラッチを右または左に回して扉の隙間を調節します。
- ※右に回すと隙間が狭まり、左に回すと広がります。
- ②扉を閉めて、隙間が均一であるか確認します。
- ※隙間が均一でない場合は、再度①から作業をおこなってください。

【扉下部の隙間を調節する場合】

- ①扉の調節ねじを緩めます。
- ②扉目地調節部を左右に移動させて隙間を調節します。
- ③扉の調節ねじを締め付けます。
- ※隙間が均一でない場合は、再度①から作業をおこなってください。

注意

調節後は必ず調節ねじが締め付けられていることを確認してください。
 ※締め付けが不足しますと、扉がガタつきます。

10 水抜き（凍結の恐れがある場合）

●ハンドル水栓の水抜き

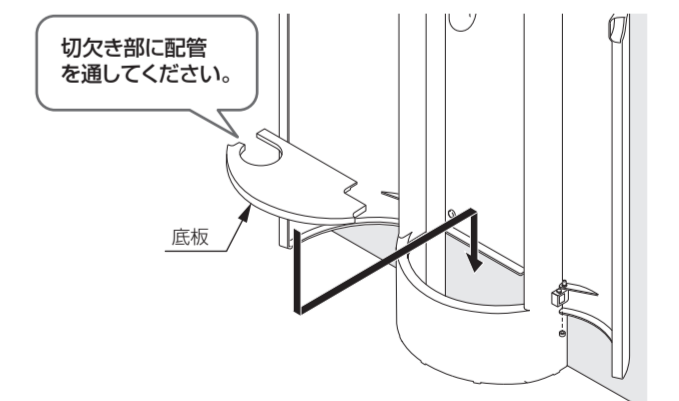
- ①止水栓の流量調節栓を閉じてください。
- ②抜け止めカバーとクリップをはずし、止水栓から給水ホースを取り外してください。
- ③ハンドルを上げてください。（開ける）
- ④水栓の水が抜けたら、ハンドルを下してください。（閉める）

注意

お客さまにお渡しするまでに凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。
 ※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす恐れがあります。

11 底板の取付け

底板を取り付けます。



12 コーキング

手洗器裏の隙間が気になる場合は、手洗器まわりをコーキングしてください。

